

(様式4-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書

1. 整備計画												
計画の名称	連続立体交差事業による都市交通の円滑化と良好な都市空間の創出（交通拠点連携集中支援事業）											
計画の期間	平成30年度～平成30年度			交付対象	静岡県・沼津市							
計画の目標	沼津駅周辺では県東部の拠点都市を形成すべく、鉄道の高架化と土地区画整理事業などの面的整備による街並みの再編を進めている。連続立体交差事業を軸に駅周辺の道路網整備を進め、都市交通の円滑化と県東部の交流拠点のまちとしてふさわしい魅力ある良好な都市空間の創出を図る。											
計画の成果目標（定量的指標）	①沼津駅周辺の交通円滑化率の拡大 ②沼津駅周辺における市街地の再編率の拡大											
定量的指標の定義及び算定式									定量的指標の現況値及び目標値			備考
									当初現況値	中間目標値	最終目標値	
									(H30当初)	(H 末)	(R4末)	
①	沼津駅周辺の交通円滑化率 Σ交通円滑化された道路延長（m）/Σ交通円滑化が必要な道路延長（m）＝交通円滑化率（％）								25%		29%	
②	市街地の再編率 Σ再編済面積（m <sup>2</sup> ）/Σ再編計画面積（m <sup>2</sup> ）＝再編率（％）								42%		56%	
全体事業費	合計 (A+B+C)	463 百万円	A	463 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0%		
事業種別	主な交付 対象事業	要素となる事業名 (事業箇所)			事業内容 (延長・面積等)			市町名	全体事業費 (百万円)	備考		
道路事業		JR東海道本線・JR御殿場線			連続立体交差L=5.3km			沼津市	402			
事業数		JR東海道本線・JR御殿場線			連続立体交差L=5.3km			沼津市	61			
2												
2. 事業の進捗状況 (○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込 ー：その他（備考欄に具体的に記入（中止、未実施等）） (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●：本計画の期間中に完成 ▲：本計画の期間終了後に完成見込)												
計画の移行なし	○		△		ー		備考		計画の移行あり	●	▲	2
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況												
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		連続立体交差事業の高架本体工事は未着手であるが、連続立体交差事業を核とする沼津駅周辺総合整備事業の1事業である土地区画整理事業（沼津駅南第一地区）による街区整備が進捗した。沼津駅南第一地区土地区画整理事業では、仮換地指定が98.5%（令和元年度末、面積ベース）となり、都市計画道路、街区道路の整備が進められ、新たな店舗や住宅の移転も進められている。										
II 定量的指標の達成状況	指標①（沼津駅周辺の交通円滑化率の拡大）	最終目標値	28.6%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値は、令和4年度の目標値である。個別補助事業に移行したため、令和元年度末の実績値を示している。沼津駅周辺総合整備事業の1事業である土地区画整理事業（沼津駅南第一地区）による区画道路L=238mが供用された。また、供用はされていないが、新車両基地付近の都市計画道路片浜西沢田線のアンダーパスの道路工事が進められている。							
		最終実績値	26.5%									
	指標②（沼津駅周辺における市街地の再編率の拡大）	最終目標値	56.4%	目標値と実績値に差が出た要因								
		最終実績値	42.3%									
	指標③（ ）	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因								
		最終実績値										
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況		沼津駅周辺総合整備事業区域では、都市計画道路及び区画街路の整備、宅地の創出により新たなまちなみが形成され、新たな賑わいが生まれてきた。また、沼津市では沼津市中心市街地まちづくり戦略が策定され、中心市街地のまちづくりの具体的な検討が進められている。										
4. 今後の方針等												
・連続立体交差事業については、令和元年度から個別補助事業に移行し、用地取得、埋蔵文化財調査など、速やかに工事着手できるように、引き続き、事業を推進する。 ・土地区画整理事業や街路整備等の関連事業についても、引き続き、事業を推進していく。												

(1) 事業の目的

【街路整備課】

沼津駅付近は、JR東海道線・JR御殿場線による南北市街地の分断により、交通混雑や中心市街地の賑わいの低下が深刻になっている。連続立体交差事業を核とする沼津駅周辺総合整備事業により、交通の円滑化、南北市街地の一体化を図り、県東部の拠点都市を形成するまちなみの再編を進めている。

(2) 指標①：沼津駅周辺の交通円滑化率

沼津駅周辺総合整備事業により整備される街路の整備率

指標②：市街地の再編率

沼津駅周辺総合整備事業の土地区画整理事業により再編される街区の整備率

指標の達成状況

- ①令和元年度末の実績値は26.5%であり、駅南第一土地区画整理事業における区画道路、幹線街路のべL=238.3mを整備した。
- ②令和元年度末の実績値は42.3%であり、駅南第一土地区画整理事業における仮換地指定面積の進捗は、98.5%となった。

計画の成果目標	定量的指標			
	H30当初	R4末最終目標	R1末実績	R1末達成率
指標①沼津駅周辺の交通円滑化率	24.6% ( 3,140.8m / 12,757m )	28.6% ( 3,643.1m / 12,757m )	26.5% ( 3,379.1m / 12,757m )	47.4%
指標②沼津駅周辺の市街地の再編率	41.5% ( 14.07ha / 33.87ha )	56.4% ( 19.10ha / 33.87ha )	42.3% ( 14.33ha / 33.87ha )	5.1%

指標①整備（交通円滑化）された道路延長／整備（交通円滑化）が必要な道路延長（単位：m）  
 指標②土地区画整理事業再編済面積／土地区画整理事業再編計画面積（単位：ha）

(3) 指標に関連する実施事例 沼津駅南第一地区土地区画整理事業



(4) 定量指標以外の効果発現状況

沼津駅周辺総合整備事業区域では、都市計画道路及び区画街路の整備、宅地の創出により新たなまちなみが形成され、新たな賑わいが生まれてきた。また、沼津市では沼津市中心市街地まちづくり戦略が策定され、中心市街地のまちづくりの具体的な検討が進められている。

(5) 今後の方針と目標達成見込み

連続立体交差事業については、令和元年度から個別補助事業に移行し、工事施行協定に向けた鉄道事業者との協議を進め、用地取得、埋蔵文化財調査など、速やかに工事着手できるよう、事業を推進する。

土地区画整理事業や街路整備等の関連事業についても、引き続き事業の推進を図っていく。